

【第3回】



在日オーストラリア大使館 商務担当公使

エリザベス・コックス 氏

「多様性」と「創造性」に溢れる高成長国 ～親日家の公使に聞くオーストラリアの魅力～

多くの日本人が思い浮かべる「オーストラリアの特徴」と言えば、「豊かな自然」や「コアラなどのユニークな動物」といったところでしょうか。多くのビジネスパーソンに聞いても、「天然ガスなどのエネルギー資源や牛肉などの農産物の供給国」といったイメージが強いかもしれません。しかしながら、オーストラリアの特徴は、決してそれだけではありません。今回、日本での留学経験を持ち、日本語も堪能な在日オーストラリア大使館の商務担当公使エリザベス・コックス様 (Elizabeth Cox; Minister (Commercial), General Manager, North East Asia Affairs) にインタビューをさせていただく機会を得ました。多くの日本人が知らないオーストラリアの魅力について、たっぷりお話を伺いました。

商務担当公使とは

前野 本日は、公務大変お忙しい中、インタビューに応じていただき、ありがとうございます。始めに、コックス様はどのようなお仕事をなさっておられるのか、お教えいただけますか。

コックス 商務担当公使とは、在日オーストラリア大使館の中で、貿易・投資に関連する業務を総括するポジションです。私は、大使館の公使であると同時に、「オーストラリア貿易投資促進庁」の北東アジア統括ジェネラル・マネージャーも務めております。したがって、韓国やモンゴルも担当地域です。

私の活動の主たる目的は、オーストラリア企業と日本企業との間で、WIN-WINの関係を築き上げ、日豪企業のビジネス交流を活発化させることです。具体的には、日豪間の貿易・投資交流の促進にとどまらず、イノ





バージョン、R&Dの分野での協業・協力関係を強化することも含まれます。

オーストラリアとは

前野 なるほど。大変なお仕事ですね。そこで、まずコックス公使にお伺いしたいのは、オーストラリアとはどのような国か、ということですね。残念ながら、私はオーストラリアに行ったことがないのですが、そのような私でも、わかるようにご説明いただけますか。

コックス オーストラリアの特徴は、三つのキーワードで説明することができます。すなわち、「Resilience」「Diversity」「Innovation」の三つの言葉です。

「Resilience」を一語の日本語で表すのは難しいのですが、「困難な状況に、適切に適応する力」ということです。ここ数年、パンデミックやロシアのウクライナ侵攻などもあって、世界経済は大変厳しい状況にあります。しかし、こうした中でも、オーストラリア経済は着実に成長を続けており、2021年のGDP成長率は4.7%となり、2022年の成長率も、IMFによれば4.2%と見込まれています。この結果、2022年末のGDPは、パンデミック前の2019年に比べて、6.7%も拡大する見込みです。

「Diversity」とは、オーストラリアが、世界中から高いスキルと才能を持った人材が集まって形成された「多国籍国家」である、ということです。オーストラリアの人口は、約2700万人ですが、その約30%の約800万人は、海外で生まれた移民の人たちです。私の両親も、父親は欧州から、母親は南米からオーストラリアに移住してきており、Multi-Culturalな家庭でした。国内に多様な文化を抱えているオーストラリアの人々は、海外の文化に対する関心が高く、海外旅行が大好きです。ちなみに、最も人気のある旅行先は日本であり、多くの方がクリスマス休暇を



Elizabeth Cox (エリザベス コックス)

オーストラリア貿易投資促進庁(オーストレード)にて北東アジア統括ジェネラル・マネージャー、及び在日オーストラリア大使館にて公使(商務)を現在務める。オーストレードでは、4つの拠点にまたがる60名のスタッフを統率し、オーストラリアや日本、韓国、モンゴルの顧客に対して、質の高い貿易・投資関連サービスを提供している。

オーストラリア国立大学でアジア研究(日本語)学士号、シドニー工科大学でパブリックコミュニケーション修士号を取得。また学習院大学と名古屋大学で、それぞれ1年間の交換留学プログラムに参加している。

取るこの時期は、日本向けフライトは全て満席となっています。

「Innovation」とは、オーストラリアが、「創造性に溢れる国」だということです。オーストラリアの産業構造を見ると、エネルギー関連産業、サービス関連産業に続き、第3位となるのが、ITなどを中心とした「テクノロジー関連産業」であり、全体の8.7%を占めています。また、「ブラックボックス」「Wi-Fi」「Google マップ」「子宮頸がんワクチン」といった現在社会に不可欠なテクノロジーの開発について、オーストラリア人が大きく関与しています。

私見ですが、オーストラリアが創造性豊かな国なのは、「開放性(Openness)」と「好奇心(Curiosity)」というオーストラリア人の気質が大きく作用していると思います。先ほども申し上げた通り、オーストラリア人は海外旅行好きです。多くのオーストラリアの若者が世界中を旅行しており、こうした中で様々な考え方に接し、創造力を育んでいるのだと思います。

日本企業にとってのビジネスチャンスとは

前野 オーストラリアが大変魅力的な国だということが、よくわかりました。そこで、日本企業にとって、オーストラリアにおけるビジネスチャンスとは、どのようなものなのでしょう。

コックス まず始めに申し上げたいことは、オーストラリアには、1960年代後半から、日本企業が進出を開始し、現在数百の日本企業が活躍されているということです。オーストラリアは、1901年に成立した大変若い国です。したがって、オーストラリア人は、日本企業を、オーストラリアの歴史の半分を共有している「古くからの友人」「信頼できるパートナー」とみなしています。

今後、日本企業にとって、どういった分野にビジネスチャンスがあるか、ということですが、まず、オーストラリアの優れたテクノロジー関連企業とアライアンスを組む、ということが考えられます。オーストラリアには、約700社のFinTech企業、約600社のMedTech企業、約400社のAgriTech企業やFoodTech企業があります。こうした企業は、世界の投資家から高い評価を得ています。更に、サイバーディフェンス指数2022/23では、オーストラリアは、第1位に評価されています。こうしたIT活用に関連したビジネス分野については、日本政府も2021年9月に「デジタル庁」を発足させるなど大変前向きで、河野太郎担当大臣の下、規制改革などに取り組まれていると承知しています。オーストラリア企業にとっても、日本市場は大変魅力的であり、先般オーストラリアのFinTech企業向け

に、「Fintech Playbook: Japan」という冊子を作りました。

次に有望と考えられるのは、交通分野、例えば高速鉄道です。オーストラリアは大陸国家であり、都市間の長距離の移動が必要となります。例えば、経済の中心地シドニーと政治の中心地キャンベラの距離（約300km）は、東京から名古屋くらいあります。現在、電車では5時間くらいかかるので、高速鉄道でつなぐことは大きなメリットがあります。また、港湾における活動の脱炭素化や、港湾と主要都市とを効率の高い鉄道で結ぶことも、重要だと思っています。

オーストラリアは、多くの先進国と異なり、人口が増加し続けているため、都市部を中心に、鉄道以外にもインフラ需要が増加しています。例えば、都市内交通の整備では、既に日本企業が活躍しています。私は、キャンベラから東京に赴任しましたが、キャンベラには、LRTシステム（Light Rail Transit: 軽量軌道交通）があります。これは、日本企業が参加して実施されたプロジェクトです。クイーンズランド州のゴールドコーストにも、LRTシステムが

ありますが、これにも日本企業が参加しています。更に、シドニーでは地下鉄の延伸計画があり、日本企業にも今後ビジネスチャンスとなる可能性があります。

いずれにしても、日本企業の持つ様々なノウハウは、オーストラリアのインフラ開発にとって重要だと考えています。交通インフラに限らず、人口増が続く都市部のインフラ需要は、今後も着実に伸びていきます。また、先進国であるため、透明性の高い法制度などが安定していることも、オーストラリアでビジネスを行う魅力の一つだと思っています。

前野 日本企業にとって、オーストラリアには、新たなビジネスチャンスがあることがわかりました。ところで、多くの日本人にとっては、オーストラリアは、LNGなどのエネルギー資源や牛肉などの農産物の「信頼できる供給国」というイメージが強い、と思うのですが、この点について、コックス公使のお考えをお聞かせください。

コックス オーストラリアが、エネルギー資源や農産物の「信頼できる

供給国」であることは、今後も変わりありません。まずエネルギーについてですが、将来的には、再生可能エネルギー中心のエネルギー供給構造をつくっていくべきだと思いますが、ここしばらくの間、天然ガスやLNGは、移行期間中のエネルギー源として、大変重要な役割を果たすと思っています。農産物に関しては、2015年1月に発効した「日豪経済連携協定（JAPEA）」が、両国に大きなメリットをもたらしています。すなわち、オーストラリアの高品質の農産物が、日本の皆様の手に入りやすくなりました。先ほど牛肉を例に挙げられましたが、私としては、牛肉以外にオーストラリアの柑橘類も日本のスーパーマーケットで数多く売られているので、ぜひご賞味いただきたいと思います。更に、関税撤廃によりオーストラリア産のプレミアムワインも入手しやすくなりました。

前野 私も、オーストラリア産のワインを頂戴したことがあります。大変おいしかったことを覚えています。

経済分野以外での日豪協力とは

前野 コックス公使の所掌とは離れるかもしれませんが、安全保障分野でも、日豪間の協力が進んでいますね。

コックス おっしゃるとおりです。2022年に限ってみても、1月には、日本の岸田総理とオーストラリアのモリソン首相（当時）の間で、自衛隊とオーストラリア軍が共同訓練を行う際などの対応をあらかじめ取り決めておく「日・豪円滑化協定」が署名されました。更に、10月には、岸田総理がオーストラリアを訪問し、安全保障を含めた日豪間の様々な協力関係の深化について、アルバーニー首相と話し合われました。防衛装備品に関しては、2022年3月に日本で開催された防衛・セキュリティ総合展示会（DSEI Japan 2022）にオーストラリアの代表団が参加した



①



②



③

①世界で広く愛されるオーストラリア産ワイン ②オーストラリアは世界最大級の牛肉輸出国
③2007年に世界文化遺産に登録されたシドニー・オペラハウス



のに対し、10月にブリスベンで行われた防衛展示会（Land Forces 2022）に、日本の防衛施設庁の関係者が参加しました。このほか、IPEFやQUADといったマルチの枠組みもあり、日豪間の協力関係は、ますます密接になっています。

お勧めの観光スポットとは

前野 先ほど、オーストラリア人にとって最も人気のある観光地は日本である、というお話を伺いましたが、日本人にとっても、オーストラリアにも、多くの魅力的な観光スポットがあると思うのですが……。

コックス オーストラリアは「美しい自然」に溢れており、以前エアーズロックとして知られたウルルなどユネスコの世界遺産に登録されているものも数多くあります。残念ながら、私は未だウルルに行ったことがないのですが、岩に夕日が落ちるのを眺めながら食べる夕食は格別と聞いています。オーストラリアでは、各地でエコツーリズムが盛んです。「豊かな自然とおいしいワイン」というのが、私のお勧めする観光です。また、自然遺産だけでなく、シ

ドニーのオペラハウスは、20世紀の近代建築物の傑作として、世界遺産に登録されています。

前野 私の友人が西海岸のパースに行っていて、大変良かったと言っていたのですが。

コックス パースも、大変美しい街で一度は訪れる価値のある街だと思います。インド洋に面しており、20kmほど沖合には、ロットネスト島という小さな島があります。そこには、「ピカチュウのモデル」と言われている、野生の「クオッカ（クオッカワラビー）」が多く生息しています。クオッカは、笑ったような口元をしていて“世界一幸せな動物”と呼ばれています。

知日家コックス公使のルーツとは

前野 最後に、コックス公使個人のお話をお聞きしたいと思います。日本語が堪能でいらっしゃるなど、大変な知日家とお見受けしますが、なぜ日本に興味を持たれたのでしょうか。

コックス 私が日本に興味を持つきっかけを作ってくれたのは、エコノミストであった私の父です。私が12歳になった時に、学校で学ぶ外国語を選択する必要があったのですが、父が強く日本語を進めてくれました。初めて「ひらがな」と出会った瞬間、ひとめぼれしました。まだ幼い私にとって、ひらがなは暗号のようで、とても面白かったことを覚えています。

その後、高校生の時に短期留学生として、山梨県の高校で学び、日本の大学にも留学しました。

現在は、47都道府県全制覇を目指して、休みの日には旅行を続けて

います。全制覇まで、残すところ後3県（佐賀県、高知県、徳島県）となりました。在任中に、必ず訪れたいと思います。

前野 本日は、お忙しい中、大変ありがとうございました。



インタビュー後記

在日オーストラリア大使館には、全くコネがなかったため、コックス公使へのインタビューは、日本貿易振興機構（JETRO）様を通じて申し込みました。

コックス公使に直接インタビューできたのは、クリスマス休暇直前であり、大変お忙しい時期だったと思うのですが、丁寧に準備をされ、かつ、日本語を交えてのインタビューであったため、インタビューアの私としては、大変助かりました（ちなみに、私も年末忙しかったため、インタビュー記事の原案は、2023年の元旦に作りました）。

娘が高校生であった際に、ホームステイでオーストラリア人のご家庭にお世話になり、その返礼として、オーストラリア人の女子高校生を1週間我が家でお預かりしたことがあります。彼女は大変元気で、コックス公使がおっしゃっていた「開放性（Openness）」と「好奇心（Curiosity）」に溢れていたことを思い出しました。

当協会専務理事
前野 陽一



大使館データ

大使館名：在日オーストラリア大使館
所在地：東京都港区三田2-1-14
ホームページ：<https://www.austrade.gov.au/Japan>

